

手話パフォーマンス甲子園実行委員会企画推進会議 (平成29年度第4回)

日時：平成30年2月20日（火）午後3時～4時30分

場所：鳥取県庁 特別会議室（議会棟3階）

1 開 会

2 委員長あいさつ

3 報告事項

- (1) 第5回全国高校生手話パフォーマンス甲子園基本計画について（資料1）

4 議 題

- (1) 議案第1号
第5回全国高校生手話パフォーマンス甲子園開催要項について（資料2）
- (2) 議案第2号
第5回全国高校生手話パフォーマンス甲子園予選審査及び本大会出場チーム選考実施要領について（資料3）

5 その他

- (1) 今後の日程について（資料4）
- (2) 全日本ろうあ連盟賞及び日本財団賞の取扱いについて（資料5）
- (3) 予算の執行状況について（資料6）

6 閉 会



第5回全国高校生手話パフォーマンス甲子園 基本計画

- 1 目 的 ろう者とろう者以外の者が互いを理解し共生することができる社会を築く「鳥取県手話言語条例」の理念を実現すべく、全国の高校生が手話言語を使った様々なパフォーマンスを繰り広げる場をつくり発信することにより、多くの人に手話言語の魅力や手話言語が優れた意思及び情報伝達手段であることを実感してもらうとともに、手話言語とパフォーマンスを通じた交流の推進及び地域の活性化に寄与することを目的に、「全国高校生手話パフォーマンス甲子園」を“手話の聖地”鳥取県で開催する。
- 2 日 程 平成 30 年秋（開催期間：1 日）
- 3 主 催 手話パフォーマンス甲子園実行委員会
- 4 共 催 鳥取県、公益社団法人鳥取県聴覚障害者協会
- 5 特別協賛 日本財団
- 6 特別協力 一般財団法人全日本ろうあ連盟
- 7 後 援（予定） 内閣府、厚生労働省、文部科学省、米子市、手話を広める知事の会、全国手話言語市区長会、一般社団法人全国手話通訳問題研究会、一般社団法人日本手話通訳士協会、全国聾学校長会、全国高等学校文化連盟、朝日新聞厚生文化事業団、NHK 厚生文化事業団、社会福祉法人全国社会福祉協議会、全国難聴児を持つ親の会、日本演劇教育連盟、日本障害フォーラム、朝日新聞社、毎日新聞鳥取支局、読売新聞鳥取支局、産経新聞社、日本経済新聞社鳥取支局、新日本海新聞社、山陰中央新報社、中国新聞鳥取支局、共同通信社鳥取支局、時事通信社鳥取支局、NHK 鳥取放送局、BSS 山陰放送、日本海テレビ、TSK 山陰中央テレビ、テレビ朝日鳥取支局、鳥取県ケーブルテレビ協議会、エフエム山陰、FM 鳥取、DARAZ FM
- 8 参加資格 高等学校（中等教育学校の後期課程を含む）・特別支援学校高等部・高等専門学校（3 年生まで）・専修学校及び各種学校の修業年限が高等学校と一致している生徒（校長の推薦書が必要）
- 9 内 容 手話言語を使った歌唱、ダンス、演劇、ポエム、コント、落語、漫才など
- 10 出 場 予選審査会を通過した 20 チーム
- 11 スケジュール
 - (1) 開催決定 平成 30 年 2 月 7 日（水）
 - (2) 申込期間 平成 30 年 5 月 21 日（月）～7 月 6 日（金）（必着）
※ 予選審査動画の提出期限：7 月 19 日（木）
 - (3) 予選審査会 平成 30 年 8 月 2 日（木）～3 日（金）（鳥取市内で開催）
※ 予選審査動画の視聴による審査（審査員 4 名）
 - (4) 本大会

日 時	平成 30 年 <u>月</u> <u>日</u> （日）午前 9 時 15 分 ～ 午後 5 時（時間は予定）
場 所	米子コンベンションセンター 多目的ホール（鳥取県米子市末広町 294 番地）
プログラム	1 開会式（関係者挨拶、優勝旗返還、選手宣誓、チーム紹介） 2 出場チーム演技（演技時間：1 チーム当たり 6 分以上 8 分以内） 3 ゲストパフォーマーによる手話パフォーマンス 4 審査結果発表（審査員 6 名） 5 表彰式（賞状等授与） 6 総評 7 閉会
収容人数	最大席数 2,004 席



※ 前日の 月 日（土）に同会場にてリハーサルを行う。

- (5) 表彰 優勝、準優勝、第3位、審査員特別賞、全日本ろうあ連盟賞、日本財団賞、鳥取県聴覚障害者協会賞
 ※ なお、上の受賞チームを除く本大会出場チームにも“梨花賞”を授与する。

12 交流会

日時	平成30年 <u> </u> 月 <u> </u> 日 (土) 午後6時～午後8時 (時間は予定) ※本大会前日
場所	鳥取県西部地区 (予定)
参加者	出場チーム (生徒、引率者) 出演者 (司会、審査員、ゲストパフォーマー) 来賓 実行委員会委員 その他大会関係者
プログラム	挨拶、乾杯 出場チーム抱負 出場チームへのエール ゲストアトラクション 歓談、交流
予定人数	250名



13 その他

(1) 大会への参加申込みについて

昨年10月に開催した第4回大会は、54チーム(55校)の予選参加申込みがあったが、前回(第3回)大会を下回ってしまった。第5回大会に向けては、第3回大会を越える参加申込みが実現するよう積極的に広報活動を行い、全国の高校生の参加を働きかけていきたい。

[過去の大会の予選参加チーム数の実績]

大会名	第1回大会	第2回大会	第3回大会	第4回大会
予選参加チーム数	41チーム(41校)	47チーム(50校)	61チーム(65校)	54チーム(55校)

(2) 大会への来場について

第5回大会についても、第4回大会(とりぎん文化会館 梨花ホール)と同様、県内最大となる2,000人規模の収容人数を誇る会場での開催となる。第4回大会では、これまでの状況と異なり空席が目立つ時間帯があったことから、引き続き、自由入場制とすることで気軽に大会を観覧できるようにするとともに、全国から多くの方に御来場いただけるよう積極的に広報を行う。

(3) 全国放送について

昨年11月、大会の様様を単独で扱う専用番組としては、初めての全国放送が実現し、第4回大会の出場校に焦点を当てたドキュメンタリーがNHK Eテレ“聾を生きる難聴を生きる”の番組にて、2週にわたって全国放送された。今後も継続的に番組が放送されるよう働きかけを行っていくとともに、第5回大会に向けては、全国的なPR効果(参加申込み及び来場者の増加)を期待したいところ。

(4) 情報保障の充実について

共生社会の実現を目指す大会の名に恥じぬよう、聞こえる・聞こえないにかかわらず楽しんでいただける大会を目指し、情報保障コーディネーターチーム(手話パフォーマンス甲子園実行委員会企画推進会議委員等で構成)を中心に、情報保障の充実に向けてさらなる改善に取り組んでいきたい。

(5) 協賛について

第4回大会では、25企業・団体及び12名の個人の方から、過去最高となる計1,671千円の協賛(その他、60万円相当のマグロの解体ショーや3万円相当の浴衣等の提供あり)をいただいた。第5回大会に向けて、引き続き多くの企業等から大会の趣旨に賛同いただき、協賛を得られるよう働きかけを行うとともに、協賛をしやすいよう制度の改善等も行いたい。

なお、第4回大会で初めて、会場にて募金の呼びかけを行った結果、総額11,441円の募金をいただいた。こうした取組は、単に募金が集まるというだけにとどまらず、募金行為を通じて、募金者に大会への愛着を持っていただく効果も考えられることから、積極的に実施していきたいところ。



第5回全国高校生手話パフォーマンス甲子園 開催要項

1. 目的

ろう者とうろう者以外の者が互いを理解し共生することができる社会を築く「鳥取県手話言語条例」の理念を実現すべく、全国の高校生が手話言語を使った様々なパフォーマンスを繰り広げる場をつくり発信することにより、多くの人に手話言語の魅力や手話言語が優れた意思及び情報伝達手段であることを実感してもらうとともに、手話言語とパフォーマンスを通じた交流の推進及び地域の活性化に寄与することを目的に、「全国高校生手話パフォーマンス甲子園」を“手話の聖地”鳥取県で開催する。
2. 大会概要
 - (1) 大会名 第5回全国高校生手話パフォーマンス甲子園（以下「本大会」という。）
 - (2) 日時 平成30年 月 日(日) 午前9時15分から午後5時まで（時間は予定）
 - (3) 会場 米子コンベンションセンター 多目的ホール（鳥取県米子市末広町294番地）
 - (4) 出場 予選審査を通過した20チーム
 - (5) 内容 以下のとおり

①開会式（関係者挨拶、優勝旗返還、選手宣誓、チーム紹介）
②出場チーム演技（演技時間：1チーム当たり6分以上8分以内）
③ゲスト演技（手話パフォーマー）
④審査結果発表（審査員6名）
⑤表彰式（賞状等授与）
⑥講評
⑦閉会
3. 主催 手話パフォーマンス甲子園実行委員会
4. 共催 鳥取県、公益社団法人鳥取県聴覚障害者協会
5. 特別協賛 日本財団
6. 特別協力 一般財団法人全日本ろうあ連盟
7. 後援（予定）

内閣府、厚生労働省、文部科学省、米子市、手話を広める知事の会、全国手話言語市区長会、一般社団法人全国手話通訳問題研究会、一般社団法人日本手話通訳士協会、全国聾学校長会、全国高等学校文化連盟、朝日新聞厚生文化事業団、NHK厚生文化事業団、社会福祉法人全国社会福祉協議会、全国難聴児を持つ親の会、日本演劇教育連盟、日本障害フォーラム、朝日新聞社、毎日新聞鳥取支局、読売新聞鳥取支局、産経新聞社、日本経済新聞社鳥取支局、新日本海新聞社、山陰中央新報社、中国新聞鳥取支局、共同通信社鳥取支局、時事通信社鳥取支局、NHK鳥取放送局、BSS山陰放送、日本海テレビ、TSK山陰中央テレビ、テレビ朝日鳥取支局、鳥取県ケーブルテレビ協議会、エフエム山陰、FM鳥取、DARAZ FM
8. 参加資格
 - (1) 平成30年度に高等学校（中等教育学校の後期課程を含む。）、特別支援学校高等部、高等専門学校（3年生まで）、専修学校及び各種学校（修業年限が高等学校と一致している生徒に限る。）に在籍していること。
 - (2) 本大会に参加することについて、校長の承認が得られていること。また、参加する生徒について、校長の推薦が得られていること。
 - (3) 本大会への参加に当たって、原則として在籍する学校の教職員が引率できること。
 - (4) 原則として、本大会の全日程及び本大会前日のリハーサル及び交流会に参加できること。

9. チーム編成

1 チームの編成は、同一校又は複数校で編成する連合チームの生徒及び引率者とし、生徒は演技者の他、演技の補助者や必要に応じてチームの介添え者を含めることとする。人数は最大で生徒 20 人以内、引率者 10 人以内とする。なお、同一校からの複数チームの参加申込みは可能とするが、本大会に出場できるのは予選審査で同一校中、最上位のチームのみとする。

10. 演技内容

- (1) 手話言語を使った歌唱、ダンス、演劇、ポエム、コント、落語、漫才などのパフォーマンスで、表情も含め手話言語を正確に使いながら、伝えようとする意志をしっかりと持ち、工夫された演出や構成と豊かな表現力により演じられるものとする。なお、審査基準としては、必ずしも音(音声や音楽など)を用いる必要はないことを申し添える。
- (2) 演技時間は、6分以上8分以内とする。なお、予選審査会においては、3分以内の動画を提出するものとする。
- (3) 演技スペースは、間口10メートル、奥行5メートルの範囲とする。
- (4) 情報保障の観点から、演技中、歌詞やセリフ等には字幕を必ず表示させること。
- (5) 字幕表示、進行(キュー出し等)、演出(音響・照明等)、通訳等の補助動作を含め、演技は全て生徒が行うこと。引率等、生徒以外の者が演技中に生徒への指示や補助動作を行うことは認めない。
- (6) 演技の補助として、準備に時間を要しない簡素な小道具、舞台装置、背景、スクリーン等のみ使用を認める。
- (7) スクリーンに表示する内容について、字幕の他、演技のイメージを伝える画像の使用は認めるが、動画の使用は認めない。なお、著作権の発生するものについては、20(11)を参照すること。
- (8) 予選審査における撮影ルール等の取り扱いは、別途提示する。

11. 審査方法

- (1) 主催者が委嘱した審査員が審査及び採点を行う。
- (2) 審査員は、予選審査会4名、本大会6名から構成し、審査員の中から主催者が審査員長を選出する。
- (3) 予選審査は、参加申込みチームが提出した演技動画を視聴する方法により、審査員が行う。
- (4) 予選審査会及び本大会の審査基準、採点方法、演技時間の計測方法等は、別途定める。

12. 参加申込み方法

- (1) 申込期間 平成30年5月21日(月)から7月6日(金)【必着】まで
※ 予選審査動画の提出期限は、平成30年7月19日(木)【必着】まで
- (2) 提出書類 別紙(省略)のとおり
- (3) 補足事項
ア (2)の書類は、13.の申込み先まで指定する方法及び期限に沿って提出すること。
イ 本大会における参加者の個人情報等については、別添(省略)のとおり取り扱うので、同意の上、参加申込みを行うこと。
ウ 予選審査用の演技動画の提出期限は、平成30年7月19日(木)までとする。まずは、(1)の期間中に参加申込みを行うこと。
エ 例年、申込期間の終盤に参加申込みが集中する傾向があるが、5月21日(月)から参加申込みを受け付けるので、是非、できる限り早期に申込みを行うようお願いしたい。
オ 参加申込み及び予選審査動画は、各期限日必着とする。思わぬ配送遅滞の可能性もあることから、書類は期限日までに余裕を持って提出するよう務めること。なお、期限日に間に合うか不安がある場合(特に、7月に入って(2)の書類を郵送しようとする場合)は、必ず13.の問合せ先まで連絡すること。また、期限日を過ぎて参加申込みの書類が届き、何とかならないかという相談を受けるケースがあるが、一切認められないので留意すること。(このような事態を防ぐため、期限まで余裕がない場合は、提出前に13.の問合せ先に連絡し、適切な指示を受けることが望ましい。)

13. 申込み先・問合せ先

〒680-8570 鳥取市東町一丁目220番地

手話パフォーマンス甲子園実行委員会事務局

(鳥取県福祉保健部ささえあい福祉局障がい福祉課内。以下「事務局」とする。)

電話：0857-26-7682 FAX：0857-26-8136 Eメール：s-koushien@pref.tottori.lg.jp

14. 参加料 不要

15. 助成金

出場チーム（生徒、引率者）に、次のとおり交通費、宿泊費の一部を助成する。

- (1) 交通費（領収書必要）
実費相当額を助成（1チーム当たり 250,000 円を上限とする。）
- (2) 宿泊費（領収書必要）
実費相当額を助成（1チーム当たり 85,000 円を上限とする。）

16. 表彰

表彰区分は次のとおりとする。

- (1) 優勝（賞状、優勝旗、メダル、副賞を授与する。）
- (2) 準優勝（賞状、準優勝楯、メダル、副賞を授与する。）
- (3) 3 位（賞状、メダル、副賞を授与する。）
- (4) 審査員特別賞（賞状、副賞を授与する。）
- (5) 全日本ろうあ連盟賞
- (6) 日本財団賞
- (7) 鳥取県聴覚障害者協会賞
※ その他、上の受賞チームを除く本大会出場チームに“梨華賞”を授与する。

17. 予選審査会

- (1) 日程 平成 30 年 8 月 2 日(木)～3 日(金)
- (2) 場所 鳥取県鳥取市内で開催
- (3) 内容 参加申込みチームが提出した予選審査動画の視聴により審査を実施し、本大会に出場する 20 チームを選出する。
- (4) 結果 平成 30 年 8 月 3 日(金)に審査結果発表会を行う（公開。ライブ中継あり）。なお、発表会終了後、公式ホームページ上に審査結果を掲載する。
- (5) その他 上記(4)の発表会時に、本大会の各チームの演技の順番及び選手宣誓を担当するチームを抽選で決定することとする。（本大会出場チーム発表後に、抽選を行うこととする。）

18. 交流会

- (1) 日時 平成 30 年 月 日(土)午後 6 時から 8 時まで（時間は予定）
- (2) 場所 鳥取県西部地区
- (3) 内容 出場チームやその他大会関係者が一同に会し、食事を交えて参加者同士の交流を深めるもの。

19. スケジュール

平成 30 年 2 月 7 日(水)	本大会の開催決定
○月○日(○)	本大会の開催日及び開催要項公表
5 月 21 日(月)	参加申込み受付開始
7 月 6 日(金)	参加申込み締切
7 月 19 日(木)	予選審査動画の提出締切
8 月 2 日(木)	予選審査会
8 月 3 日(金)	予選審査会（結果発表、本大会演技順番、選手宣誓チーム決定）
8 月 31 日(金)	ヒアリングシートの提出（演技内容の詳細（シナリオ・楽曲等）の報告）
○月○日(○)	リハーサル（本大会と同会場）、交流会（会場未定）
○月○日(○)	本大会（米子コンベンションセンター 多目的ホール）

20. その他

- (1) 参加者の交流を深める目的であることから、本大会前日の 月 日(土)に開催する交流会は、原則として参加すること。（参加費は不要。）

- (2) 月 日(土)に本大会と同会場ですべてのチームがリハーサルを実施する。なお、各チームのリハーサルのスケジュールは、本大会の発表順を基本に事務局にて指定することとする。また、できる限りの配慮は行いが、当日の午前中からリハーサルを実施する関係で、月 日(金)の宿泊が必要な場合があるので、承知すること。
- (3) 受賞チームは、本大会閉会后、可能な限り報道機関等のインタビューに応じること。
- (4) 演技上のセリフや歌詞等に対応させた字幕を必ず付与すること。なお、演技の字幕は、予選審査動画においては映像の中に、本大会においては舞台の後ろに設置するスクリーンに表示させること。また、本大会における字幕の表示はパフォーマンスの表現の一環であることから、自ら行うこと。なお、演技中は、主催者側でセリフの要約筆記等を行わない。
- (5) 演技で使用する小道具及び会場にない設備を使用（特殊な照明や音響等）する場合（準備が1分以内に完了できるものに限る。）は、原則として各チームにおいて用意すること。なお、これらの使用については、本大会前に舞台監督と詳細を打ち合わせすることとする。
- (6) 舞台上の演技者が演技の主体となるように構成すること。なお、演技者とスクリーン映像の視聴は両立しないことを前提に、あくまで演技者に観客の目を向けさせるような構成に努めるとともに、スクリーンの使用は字幕の表示を中心に、画像の使用を必要最小限とすることが望ましい。
- (7) 歌唱を行う際は、発話が困難な場合を除き、CD音源や事前収録した音源を歌唱に利用する（いわゆる口パクやかぶせ）のではなく、是非、自ら発声する方法で本番（予選審査を含む。）に挑戦してほしい。なお、CD音源や事前収録した音源の歌唱利用を禁止するわけではないので、申し添えておく。
- (8) 本大会の演技は、後日、手話パフォーマンス甲子園☆動画チャンネル(YouTube)上に、全て公開する。
- (9) 本大会において演技中にCD音源を使用する場合、インターネット(YouTube)上での配信について著作権者の許可が得られないものについては、CD音源部分の音声（歌唱やセリフ等）を消去した上で本大会当日のライブ映像及び後日公開する映像を配信することとする。なお、各チーム等が作成した音源（ピアノやブラスバンド伴奏、生徒の合唱等。CD音源が含まれないもの。）については、著作権及びYouTube上、音声を消去する必要がない（ただし、音源の作成者の了解が得られたものに限る。）ことから、その音源も含めてライブ映像等を配信することができるので、是非検討すること。
- (10) 演技時に自校の完全なオリジナル作品ではない著作物を引用等する場合（シナリオや美術道具、ダンス等）は、会場での上演や、本大会当日のライブ配信、大会後の演技映像の公開にあたって、著作権を侵害することのないよう自校において事前に対処しておくこと。なお、音楽については(9)のとおりだが、楽曲の改変（歌詞を変えたり、編曲するなど）に該当する場合は、著作権者の許可が必要となるため、留意すること。
- (11) 演技中、著作権が発生する画像等をスクリーンに表示させたい場合は、著作権を侵害することのないよう自チームにて会場、ライブ配信及び大会後の公開映像での当該画像等の使用について、全て著作権者の許可を得ること。なお、このことから、可能であれば自チームで制作した著作権の発生しない画像等を使用することが望ましい。
- (12) 高校生による手話言語の祭典であるという観点から、演技時だけでなく、演技後のインタビュー時の応答や、交流会での各チームの発表、その他様々な発表の機会や交流の場面においても、各自ができる範囲で（少しでもいいし、間違ってもいいので、）是非、積極的に手話言語の使用に挑戦してほしい。
- (13) 本大会出場にあたっては、出場チームが確実に宿泊できるよう宿泊先の斡旋を行う予定。（利用は任意）
- (14) 引率代表者は、事務局との連絡調整を担当すること。なお、主に電子メールにて頻繁に連絡等を行うこととなるため、参加申込み後は小まめに電子メールの受信を確認するよう務めること。
- (15) 本大会出場チームには、予選審査結果発表後に様々な資料等の提出をお願いすることとなる。この時期が夏休み及びお盆期間と重なるので、引率代表者は事務局及びチーム内の円滑な連絡調整ができるよう留意すること。
- (16) 予選参加申込み及び本大会出場に係る事務局への提出物は、返却しない。

(別添)

個人情報、肖像権及び著作権の取扱いについて

手話パフォーマンス甲子園実行委員会（以下「主催者」という。）は、「第5回全国高校生手話パフォーマンス甲子園」（以下「大会」という。）への参加における個人情報、肖像権及び著作権について、以下のとおり取り扱うこととします。

1. 個人情報

- (1) 大会公式プログラムに氏名、所属校、学年を掲載します。
- (2) 大会の会場でアナウンス、スクリーン等により氏名、所属校、学年を紹介することがあります。
- (3) 手話パフォーマンス甲子園公式サイト（Facebook, twitter, LINE, YouTube を含む。以下「公式サイト」という。）及び大会報告書、PR ビデオ等の主催者の制作物に氏名、所属校、学年を掲載することがあります。
- (4) 大会関係者、報道機関、後援団体、協力機関等に氏名、所属校、学年を情報提供することがあります。
- (5) (2)から(4)に記載した方法により、大会結果（チーム成績を含む。）とともに参加者の氏名、所属校、学年を公表することがあります。
- (6) 参加者から提供されたすべての個人情報は、大会出場に係る連絡及び通知、大会に関する統計（個人を特定できない範囲での利用とする。）等、大会に関する目的で使用することがあります。

2. 肖像権及び著作権

- (1) 大会プログラム及び公式サイトに参加者から提供された写真を掲載します。
- (2) 1の(2)から(4)に記載した方法により、参加者から提供された写真を公表することがあります。
- (3) 予選審査動画を公表、編集及び改変することがあります。
- (4) 主催者、報道機関、後援団体、協力機関等により撮影された参加者の映像が、中継、放送及びインターネット配信により公開されることがあります。また、当該映像がDVD等に編集され、配布されることがあります。
- (5) 主催者、報道機関、後援団体、協力機関等により撮影された参加者の写真（電子データを含む。）が公式サイト、新聞、雑誌、大会報告書等の印刷物及びインターネット等に掲載されることがあります。
- (6) 主催者が撮影した映像若しくは写真又は予選審査動画を大会関係者、報道機関、後援団体、協力機関等に提供することがあります。
- (7) その他、主催者に許可を受けた者によって撮影された映像及び写真が公開されることがあります。
- (8) 主催者が撮影した映像及び写真の著作権は主催者に帰属するものとし、当該映像及び写真の利用及びこれに伴う編集、改変についての異議申し立て等は受け付けません。

3. 主催者としての対応

主催者が取得した参加者の個人情報は、上記利用目的以外に使用することはありません。ただし、主催者は、お預かりした個人情報を取り扱う業務の一部または全部を外部に委託することがあります。

[別 紙]

第5回全国高校生手話パフォーマンス甲子園参加申込みに係る提出書類について

第5回大会の参加申込みにあたっては、2回に分けて郵送又は持参により関係書類等を提出してください。

(1) [7月6日(金)まで] ①予選参加申込書、②校長承認及び推薦書の提出 (いずれも紙面で提出)

(2) [7月19日(木)まで] ⑦予選審査動画等の提出 (以下の③・④・⑤・⑥・⑦)

※ 電子データにあたっては、光ディスクやフラッシュメモリーなどの記録媒体に保存して提出してください。

※ 電子データで提出する様式のうち、④・⑤・⑥については、それぞれ印刷した紙面も同封してください。

提出物	様式	提出期限	提出	補足事項
①予選参加申込書	様式第1号	7月6日(金)	紙面	<ul style="list-style-type: none"> 引率代表者が押印(私印)の上、提出してください。 申込者は、引率代表者としてください。なお、引率代表者の方に事務局と連絡調整を行っていただきます。 複数の学校により合同チームを結成する場合は、全ての学校名(正式名)を記載してください。 事務局が公表するチーム名は学校名とします。なお、この場合、〇〇県立△△高等学校(公立)、学校法人□□園◇◇学高等学校(私立)の「〇〇県立」や「学校法人□□学園」の記載は省略し、高等学校名のみ表記します。
②校長承認及び推薦書	様式第2号	7月6日(金)	紙面	<ul style="list-style-type: none"> 校長印を押印の上、提出してください。なお、原則として校長印は公印としてください。ただし、以下のケースで公印が遠方にある等、やむを得ない事情がある場合は、校長の私印でも可とします。 本校とは別に分校やキャンパスがあり、分校やキャンパスとして参加申込みを行う場合は、その分校やキャンパスの長の承認及び推薦でも可とします。
③予選参加者名簿	様式第3号	7月19日(木)	紙面	<ul style="list-style-type: none"> 校長の推薦が得られた生徒を参加させてください。 名簿上の生徒とチーム集合写真に登場する生徒は、必ず一致させてください。 予選参加者は、原則として、本大会に参加できる生徒・引率者としてください。
④チーム紹介文	様式第4号 (Word)	7月19日(木)	電子データ	<ul style="list-style-type: none"> 100文字以内でチーム紹介を行ってください。 高校生らしい元気で明るいメッセージを寄せてください 大会公式HPに掲載します。(予選参加チームの紹介)
⑤チーム集合写真	JPEG形式 (カラー)	7月19日(木)	電子データ	<ul style="list-style-type: none"> 横640×縦480ピクセル以上の解像度、フルカラー。 参加者名簿に掲載されている生徒が全員写っている写真としてください。 ④と併せて公式HP上にチーム写真を掲載(公開)しますので、同意の上、提出してください。なお、チーム写真の公式HPへの掲載を望まない場合は、個別に対応を検討しますので、事務局までその旨をお伝えください。
⑥演技情報	様式第5号	7月19日(木)	電子データ	<ul style="list-style-type: none"> 提出する予選審査動画の演技情報を記載してください。 審査員が審査にあたって参考とする情報となります。
⑦予選審査動画 (演技)	—	7月19日(木)	電子データ	<ul style="list-style-type: none"> 撮影方法等の詳細は、別添の「第5回全国高校生手話パフォーマンス甲子園予選審査動画撮影要領」をご確認ください。なお、同要領に定められたルールのとおり撮影されていない場合、失格又は減点となる可能性がありますので、ご注意ください。 提出を受けた映像により、予選審査を行います。

[参加申込み・お問合せ先] 手話パフォーマンス甲子園実行委員会事務局

住所：〒680-8570 鳥取県鳥取市東町1丁目220番地(鳥取県福祉保健部ささえあい福祉局障がい福祉課内)

電話：0857-26-7682 , ファクシミリ：0857-26-8136 , メールアドレス：s-koushien@pref.tottori.lg.jp

※ 参加申込みや動画の撮影にあたってご不明な点がございましたら、上記までお気軽にご連絡ください。

※ 全国から、多くの高校生の参加申込みをお待ちしています。

本大会への出場にあたって必要となる提出物（予定）

平成 30 年 8 月 3 日（金）の予選審査結果発表後、本大会の出場を勝ち取ったチームには、以下の書類等を提出していただくよう予定しています。

特に、夏休みやお盆期間と重なることから、毎年、事務局と連絡調整をご担当いただく引率代表者の方やチーム内で連絡がとれない、提出物が作成できないという事態が生じているため、予定されている提出物の内容を予め提示するものです。

予選参加申込みチームの皆様におかれましては、ぜひ、事前に心構えをしていただくとともに、できる限り夏休みに入るまでに可能な準備を行い、8 月中であっても生徒や教師、事務担当者等の関係者と円滑な連絡調整が行うことができるよう十分に御留意ください。

なお、本大会出場決定後、本大会出場まであまり時間がなく、指定提出物の作成を含め、非常にきつい（タイトな）スケジュールで本大会の準備が進むこととなります。ご理解・ご協力の程、何卒よろしくをお願いします。

【予定されている提出物の例】

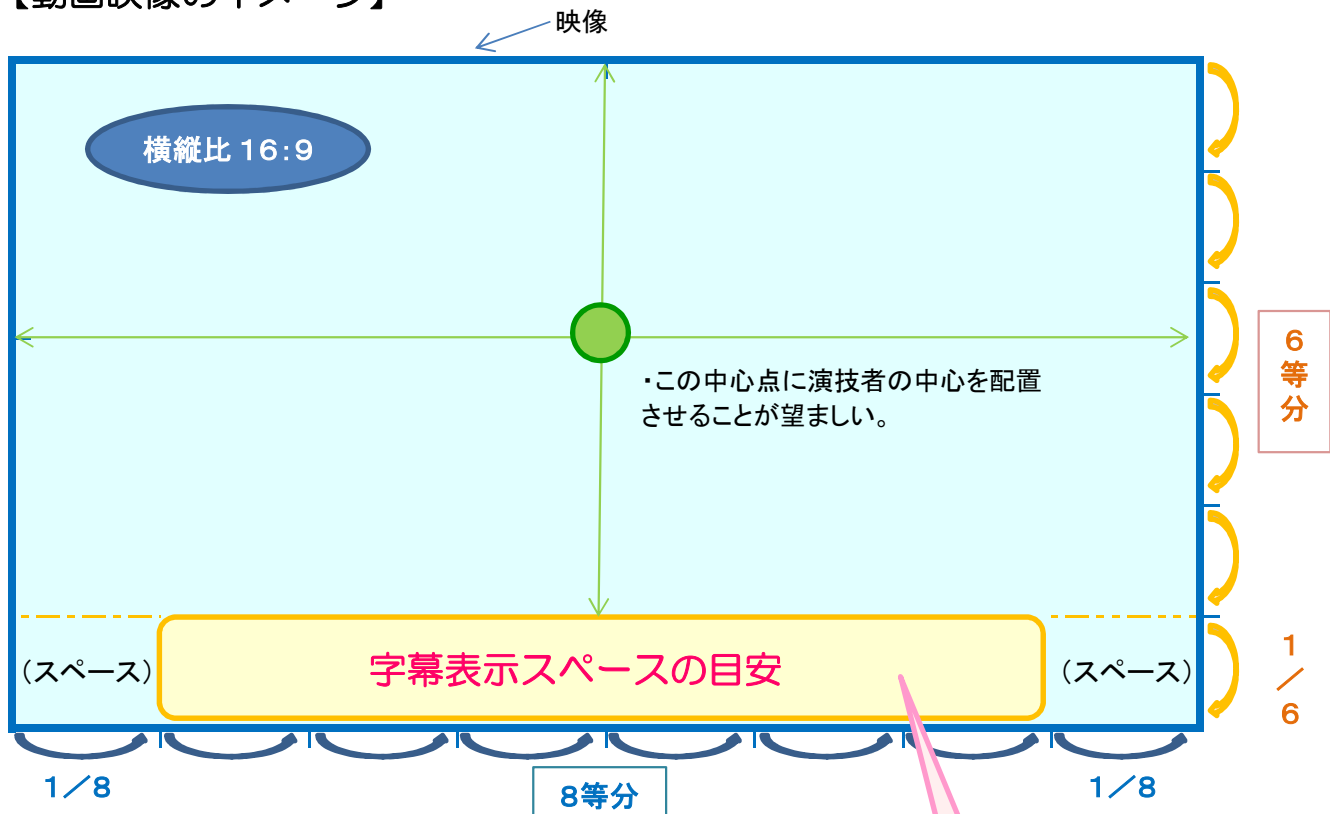
提出物	内 容	提出時期
チーム行動スケジュール	利用する交通機関（行き・帰り）、鳥取県に到着する時間又は大会終了後の鳥取県を出発する時間、各地→鳥取県（大会参加）→各地間の具体的なスケジュール、宿泊日及び宿泊先、大会前日の練習会場の利用希望 など	8 月中旬（お盆明け）
参加者名簿	様式第 3 号に類似。最新情報に更新。大会プログラムに掲載予定。	8 月下旬
チーム紹介文	様式第 4 号に類似。最新情報に更新。様式第 4 号に対して、指定文字数が増加する予定。大会プログラムに掲載予定。	8 月下旬
チーム集合写真	修正の希望がある場合。大会プログラムに掲載予定。	8 月下旬
演技情報	様式第 5 号に類似。本大会の演技内容に基づくもの	8 月下旬
個人情報等取扱同意書	個人情報、肖像権、著作権の取扱いに係る同意書。生徒及び保護者の自署又は押印が必要	8 月下旬
ヒアリングシート	演目内容（構成・曲順・時間割等）、スクリーンや音源の使用データの確認、使用機材等、ステージ配置図、チーム要望、舞台監督との具体的な連絡調整の担当者 など	8 月下旬
チーム紹介映像	本大会の発表時に冒頭でチームを紹介するために使用する映像。30 秒以内とし、音声又は手話のセリフには必ず字幕を表示させること。地域の名所で撮影するなど、ぜひ、地域や自校の特色を積極的に打ち出してほしい。	9 月上旬
その他	・自校ののぼり旗（大会会場掲示用。任意。） ・学校紹介パンフレット（既存のもの）	9 月上旬

- 上記はあくまで作成時点の予定です。提出物の内容が変わる場合や、その他に提出を求める場合がありますので、ご了承ください。
- なお、具体的には、本大会出場チーム決定後、それぞれのチームの引率代表者へご案内します。



第5回全国高校生手話パフォーマンス甲子園 予選審査動画撮影要領

【動画映像のイメージ】



《撮影ルール》

- 平成30年4月1日以降に撮影されたもので、再生時間を3:00分以内の動画とすること。
※ 提出する動画ファイル自体の長さを3:00分以内とすること。すなわち、演技前の余韻や紹介、演技後の余韻時間等があれば、それらも全て含めて、3:00分以内とすること。
※ ルールに沿った撮影とするため、予選審査専用撮影が望ましい。
- フルカラーの撮影とすること。(モノクロやセピア色、1色は不可)
- 画面は、横縦比を16:9とすること。(4:3ではない)
- 画面上の演技者の配置や字幕の表示スペース・方法は、上の「動画映像のイメージ」とおりとすること。
- 演技者及び演技者の表情、手話がよく見えるよう演技者の大きさ及び明度を確保すること。
- 演技者の全てセリフや歌詞に対応する字幕を入れること。なお、字幕は一定のタイミングで固定表示とし、演技者に重ならないようにすること。
- 演技者の全身を表示させること。なお、例外的に、動きがなく前後の列となる場合の後列の演技者や着席している場合は、その該当者に限っては少なくとも上半身(腰より上)を表示させることも認めるが、その場合であっても、なるべく全身を表示させるよう務めること。
- 演技者の正面でカメラを固定して撮影すること。演技中、ズームやワイド等の倍率の変更及びカメラを移動させて撮影することは不可とする。
- 予選審査においては、背景による演出は認めない。ただし、演技の構成上、映像や写真等が必要な場合にスクリーン等を使用することは認める。
(例:観光地の紹介に写真を投影する、パワーポイントの説明をする 等)
- 動画のファイル形式はAVI、MPEG、MP4、WMV のいずれかとし、解像度は720px×480px 以上、1920px×1080px以内とすること。
- フレームレートは、60(59.94)fps又は30(29.97)fpsとすること。
(30fpsに満たない24fpsや25fpsは認めない)

【字幕の補足事項】

- ・字幕は、概ね下から縦1/6以下、横は左右1/8以上を空けたスペースに表示させること。
- ・見やすい大きな文字とすること。
- ・フォントはゴシック体、色は白文字を基本とすること。(ただし、背景が白い場合、枠が黒い白抜き文字か、灰色等の背景と同色ではない見やすい文字色とすること。)
- ・セリフ(歌)のタイミングに対応させた字幕(歌詞)を表示させること。なお、タイミングに合わせるため、字幕が2行となっても構わないこととする。
- ・字幕は停止(固定)表示とし、セリフのタイミングに合わせて、一定時間、表示させること。
- ・演技者に重ならないように字幕を表示させること。

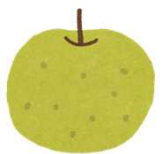


《撮影の見本》

- 正面にカメラを固定して撮影してください。（ズームやワイドは不可。）
- 演技者全員の全身を表示させましょう！
⇒ 舞台上で演技している生徒を、観客席からカメラを通して見ているようなイメージで撮影してください。
⇒ 特に、動きの中で生徒の足が切れてしまうケースがみられます。演技中は常時、全員の生徒の全身が映るようご注意ください。なお、全身が映るためにどこまでカメラに近づけるか事前に確認し、その限度にラインを引いて、演技中にそのラインを超えないよう指示をして、撮影するようにすればよいでしょう。
- 手話が見やすいようにできる限り人物を大きく撮影してください。
- 手話表現は、表情もとても大切な要素です。演技者の表情がよく分かるようにしましょう！
⇒ 演出上の目的以外で、マスクを着用することはやめましょう！
- 字幕は、演技者に重ならないように表示させてください。



イラストでは白いスペースと
なっていますが、
撮影にあたっては、
（あえて白いスペースを作る必要はなく）
背景上にそのまま字幕を表示して構いません。



✕ 全身を表示させましょう！

悪い例：上半身しか表示されていません！

※ 演技開始から終了まで、常時全員の全身が映るようにしましょう！



《動画の提出》

- 制作した予選審査動画は、DVDディスク等の記録媒体に保存して、提出してください。
- 提出期限は、平成30年7月19日(木)です。

撮影方法や字幕の入れ方、その他ご不明な点ありましたら、以下までお気軽にお問合せください！

【問合せ先】大会実行委員会事務局

電話：0857-26-7682

ファクシミリ：0857-26-8136

メールアドレス：s-koushien@pref.tottori.lg.jp



第5回全国高校生手話パフォーマンス甲子園参加申込書

平成30年 月 日

手話パフォーマンス甲子園実行委員会 会長 様

学校名等：

氏 名： 印

「校長の承認及び推薦書」並びに「参加者名簿」を添えて、本書のとおり第5回全国高校生手話パフォーマンス甲子園に参加申込みをします。

【参加学校の情報】

学校名（正式名）	ふりがな	住所
		〒 —
		〒 —
		〒 —
		〒 —
		〒 —

※ 複数の学校で参加する場合は、全ての学校を記入してください。

※ なお、大会にて使用（発表）する高校名は、公立学校の場合は〇〇県立、私立学校の場合は◇◇学校法人等の表記を省略します。

(次ページに続く)

【引率者（チーム代表者）の情報】

ふりがな	
学校名（正式名）	
ふりがな	
氏 名	
所属等 （学校名、役職、 部（サークル名）及びその役職等）	
電話番号	
メールアドレス	

※ 原則として、引率の代表者を申込者としてください。また、申込者の方に事務局と連絡調整をしていただくことになります。

※ 電話番号及びメールアドレスは、最も連絡を取ることができる番号等（学校の代表電話ではなく、直通の電話番号が望ましい。）を記載してください。

【チームの情報】

参加予定人数	生徒	人
	引率	人
(備 考)	<p>※ 参加人数は現時点の予定で構いません。(変更可能)</p> <p>※ 複数校の合同チームの場合、高校ごとに参加予定人数が分かるように上のスペースに補記してください。</p>	
演技の分類（予定）	<p>※ 様式第5号の①を参照に、現時点で予定している演技内容の分類を記載してください。(変更可能) (例：歌唱・ダンス など)</p>	
過去の本大会出場実績	<p style="text-align: center;">有 ・ 無</p> <p>※ 第1回大会から、本大会出場実績の有無について、該当する方に○を記載してください。</p> <p>※ なお、複数校による合同チームの場合、本大会に出場実績のある高校がいる場合は、「有」に○をしてください。</p>	

第5回全国高校生手話パフォーマンス甲子園承認及び推薦書

平成30年 月 日

手話パフォーマンス甲子園実行委員会 会長 様

学校名：

所在地：

校長名：

印

本校の生徒が「第5回全国高校生手話パフォーマンス甲子園」（以下「大会」という。）へ参加することを承認するとともに、別途提出する予選参加者名簿に記載している本校の生徒を大会の参加者として推薦します。

- ※ 複数の学校による合同チームの場合は、全ての校長について提出してください。
- ※ 校長印（原則公印）を押印して提出してください。

第5回全国高校生手話パフォーマンス甲子園 予選参加者名簿

【参加者の概要】

参加 学校数	参加者数	参加者の内訳(人)			
		生徒	男	女	引率
	0	0			

演技を行う担当か、演技の補助を行う生徒かの種別を選択してください。

演技の補助を行う生徒は、その内容を記載してください。また、配慮すべき障がいがある場合は、その内容を記載してください。なお、記載を望まない場合は、記載は任意とします。その他、必要な補足情報を記載してください。

↑ 男・女(生徒)及び引率者の人数を入力。

【参加者一覧】

生徒、 引率	No.	学校名	氏名		ふりがな		学年	性別	演技担当 補助担当	備考
			姓	名	姓	名				
生徒										
引率										

※1 参加する生徒は、全て校長の推薦が得られた生徒としてください。
 ※2 予選参加者は、原則として、本大会に参加できる生徒としてください。
 ※3 演技の補助を担当する生徒については、備考欄にその役割を分かりやすく記載してください。
 (例:障がいのある生徒の介助者、字幕表示担当、キュー出し担当、舞台操作担当、照明担当、音響担当 など)

第5回全国高校生手話パフォーマンス甲子園 チーム紹介文

1 0 0 文 字 以 内

第5回全国高校生手話パフォーマンス甲子園 予選審査演技情報

【回答者情報】

氏名	
学校名	
連絡先	(0) -
メールアドレス	

【演技内容】

①	演技の分類 (該当する項目に○) ※ 複数選択可	歌唱		ダンス		演劇		ポエム		コント		落語
		漫才		その他	[]							
②	演技タイトル											
③	演技のコンセプト (300文字以内) 【文字数: 文字】 ※ 入力した文字数を上に記載してください。 ※ 改行はしないこと。											
④	動画ファイルの再生時間 (3:00分以内) 分 秒											
⑤	使用楽曲	①	歌手名	使用音源								
			曲名	□CD音源 □自チーム制作 □当日演奏予定 □その他()								
		②	歌手名	使用音源								
			曲名	□CD音源 □自チーム制作 □当日演奏予定 □その他()								
		③	歌手名	使用音源								
			曲名	□CD音源 □自チーム制作 □当日演奏予定 □その他()								
⑥	使用予定機材等											

【補足事項】

①演技の分類	該当する分類に「○」を入力してください。なお、例示している分類に当てはまらない場合は「その他」を選び、具体的な分類を端的に入力してください。
②演技タイトル	演技の内容を分かりやすく表現するため、演技タイトルを端的に表現してください。
③演技のコンセプト	審査員が審査を行うのにあたり、演技の意図をより深く理解するために記載していただくものです。
④再生時間	動画ファイルの再生時間を3:00分以内としてください。 ※ イン트로でのチーム紹介や終了後の余韻時間も含め、全て演技時間に含めます。 ※ 再生時間が3:00分を超える動画ファイルは、演技時間の超過となり減点となりますので、ご注意ください。
④使用楽曲	演技に音楽を使用する場合、その音源を記載してください。(該当する項目を■にしてください。) なお、「自チーム制作」とは、CD音源を一切使用せず、自チームで演奏や歌唱を収録した音源を使用することをいいます(楽曲の改変(歌詞を変更したり、編曲するなど)する場合は、著作権者の許可が必要になります)。なお、いずれにも該当しない場合は、「その他」を選択し、その具体的内容を()の中に記載してください。
⑥使用予定機材	準備に時間を要しない簡単な小道具等のみ使用可能です。本大会で使用を予定している小道具等があれば記載してください。 なお、設置に1分以上を要しそうな大道具や機材等は認められませんので、ご注意ください。 また、会場にない設備等を使用したい場合は、原則として自チームで準備してください。(設置に時間を要しないものに限る。) ※ 詳細は、本大会前に舞台監督と打ち合わせをしていただくことになります。

第5回全国高校生手話パフォーマンス甲子園 予選審査及び本大会出場チーム選考実施要領

1 予選審査会の概要

- (1) 日程 平成30年8月2日(木)から3日(金)まで
- (2) 場所 鳥取県鳥取市内で開催
- (3) 補足
 - ア 具体的なスケジュールや会場は、後日、大会公式ホームページにて公表する。
 - イ 予選審査結果の発表は、8月3日(金)に行う。
 - ウ イの発表は、公開の上行う。また、発表会の様子は、「手話パフォーマンス甲子園☆動画チャンネル」(YouTube)上でライブ中継を行う。なお、発表後、大会公式ホームページに結果を掲載する。

2 審査員

審査員は、ろう者2名及び聞こえる人2名の4名とし、このうち1名を審査員長とする。

3 審査方法

各審査員が各チームから提出を受けた予選審査動画を視聴の上、4の採点方法に基づき審査及び採点し、その合計を各チームの審査得点とする。

4 採点方法

- (1) 各審査員が、次の表に掲げる審査項目を担当項目別に採点する。

審査員	手話言語の正確性・ 分かりやすさ	演出力・ パフォーマンス度	合計
ろう者	(30点満点)	(30点満点)	(60点満点)
ろう者	(30点満点)	(30点満点)	(60点満点)
聞こえる人		(40点満点)	(40点満点)
聞こえる人		(40点満点)	(40点満点)
合計	(60点満点)	(140点満点)	(200点満点)

- (2) 各審査項目の採点の観点は次のとおりとする。

ア 手話言語の正確性・分かりやすさ

手話言語が正しく表現されているか。顔の表情も使って、分かりやすく表現されているか。演技者が表現したい内容が手話言語で伝わり、理解できるか。

イ 演出力・パフォーマンス度

チームとしての一体感があるか。機知に富み観客を魅了する表現力、ひたむきさがあるか。演技者が込めた思いやメッセージがしっかりと伝わってくるか。構成や演出がよく工夫されているか。演技の構成がスクリーンの表示に頼りすぎたものになっていないか。

- (3) 演技等が次に該当する場合は、当該各号に記載のとおり失格又は審査得点から減点とすることとし、審査員の協議(減点の点数の定めがないものは、その点数も含む。)により決定する。なお、協議の結果、意見がまとまらない場合は、審査員長が決定する。

項目	内容
差別的表現、わいせつ表現、特定の個人・団体の誹謗中傷、その他公序良俗に反する内容が含まれる場合	失格
第三者の権利を侵害する内容が含まれる場合	失格
本大会では準備に大幅に時間を要する又は使用(再現)できないことが明らかな大道具、設備、演出等の使用	失格
演技上のセリフや歌詞、手話言語に対応した字幕の表示が不十分な場合	10点減点
演技制限時間(動画の再生時間。3分。)を超過した場合	10点減点
その他、定められた動画の撮影方法に反した場合※	5点減点
その他、不適切と認めた演技又は行為	失格又は減点

※ 「その他、定められた動画の撮影方法に反した場合」とは、以下のとおりとする。ただし、その違反の程度が軽微で、審査に影響がない場合を除く。

- ・演技者の正面で撮影していない場合。
- ・カメラを固定せず、ズームやワイド等の倍率の変更及びカメラを移動させて撮影している場合。
- ・背景に画像や動画を演出として使用している場合。ただし、演技の構成上、必要性がある場合は除く。
- ・演技者の全身が表示されていない場合。ただし、演技者の動きがない場合で前後の列となる場合の後列の演技者や着席している場合は、該当する演技者に限って手話言語が見えるよう少なくとも上半身を表示させればよい。
- ・映像の明度が非常に低く、演技者の表情や手話言語がよく見えない場合。
- ・字幕が認識しづらい場合（文字の大きさが非常に小さい、文字色が薄い、背景と同化しているなど）。
- ・字幕を固定して表示していない（文字が流れる字幕表示をしている）場合。
- ・字幕が演技者と重なっている場合。

5 本大会出場チームの選出

(1) 地方ブロック枠（6チーム）

応募チームを所在地別に6つの地方ブロック（北海道・東北ブロック、関東ブロック、中部ブロック、近畿ブロック、中国・四国ブロック、九州・沖縄ブロック）に振り分け、各ブロックで審査得点が最も高いチームを本大会出場チームに選出する。

(2) 得点順枠（12チーム又は13チーム）

(1)の選出チームを除き、審査得点が高い順に12チームを本大会出場チームに選出する。なお、(3)の該当チームがない場合は、13チームを選出することとする。

(3) 開催地枠（1チーム又はなし）

(1)及び(2)の選出チームの中に開催地（鳥取県）のチームが含まれていない場合に限り、開催地（鳥取県）のチームで審査得点が最も高いチームを本大会出場チームに選出する。

(4) 初出場枠（1チーム）

上記の選出チーム以外に、これまで本大会に出場したことがないチームの中で審査得点が最も高いチームを本大会出場チームに選出する。なお、複数校による合同チームの場合は、構成校が全てこれまで大会に出場したことがないチームを対象とする

(5) 補足

ア 各地方ブロック内において参加申込みが1チームもない場合又は(3)及び(4)の選考の対象となるチームがなく本大会出場チームを選出できないときは、そのチーム数を(2)の本大会選出チームの数に加えることとする。

イ (4)の選出対象となるチームは、各チームの申告も参考に、事務局が判断する。

ウ 審査得点が同点となり、順位を審査得点では決められない場合は、以下のとおり順位を決定する。

(ア)「手話言語の正確性・分かりやすさ」の審査項目の高いチームを上位チームとする。

(イ) (ア)が同点の場合は、審査員の多数決で上位チームを決定する。

(ウ) (イ)が同点の場合は、審査員長が順位を決定する。

6 本大会での演技順

(1) 初出場枠の選出チームが最初に演技を行い、次に開催地枠の選出チームが演技を行うこととする。なお、それぞれ選出チームがない場合は、そのチーム数を(2)のBグループに加えることとする。

(2) 3番目以降の演技順については、(1)を除く18の本大会出場チームを2つのグループに分け、審査得点が下位の8チームをBグループ、上位の10チームをAグループとして、各グループ内で演技順を抽選する。本大会ではBグループ、Aグループの順に演技する。

なお、当該抽選は、予選審査結果の発表後に続いて行うものとする。

7 予選審査結果の通知及び公表

(1) 参加申込みチームに対し、予選審査結果（本大会出場又は落選）、審査得点及び審査員評（審査員名は非公開）を通知する。また、失格となったチームに対しては、その旨を通知することとする。なお、辞退したチームについては、通知しない。

(2) 本大会出場チームについては、チーム名及び審査得点を大会公式ホームページに掲載する。

8 その他

- (1) 本大会選出チームの中から、選手宣誓を担当する1チームを選出する。なお、選手宣誓を担当するチームは、予選審査結果の発表時に抽選を行い、決定するものとする。
- (2) 予選の参加申込みを行ったものの、期限までに予選審査動画を提出しなかったチームは、失格とする。
- (3) 予選の参加申込みを行ったチームは、予選審査会の前日までに自由に参加を辞退することができる。この場合、まずは事務局にその意思を申し出るとともに、辞退届を提出すること。なお、本大会出場チームに選出されたチームが本大会の出場を辞退することは、原則として認めない。

【別記】 地方ブロックについて

ブロック名	都道府県名	ブロック名	都道府県名
北海道・東北ブロック	北海道 青森県 岩手県 宮城県 秋田県 山形県 福島県	近畿ブロック	三重県 滋賀県 京都府 大阪府 兵庫県 奈良県 和歌山県
関東ブロック	茨城県 栃木県 群馬県 埼玉県 千葉県 東京都 神奈川県	中国・四国ブロック	鳥取県 島根県 岡山県 広島県 山口県 徳島県 香川県 愛媛県 高知県
中部ブロック	新潟県 富山県 石川県 福井県 山梨県 長野県 岐阜県 静岡県 愛知県	九州・沖縄ブロック	福岡県 佐賀県 長崎県 熊本県 大分県 宮崎県 鹿児島県 沖縄県

資料4

第5回全国高校生手話パフォーマンス甲子園に係る今後の日程について

平成30年 2月20日現在

日程	内容	備考
平成30年2月7日	H29 実行委員会総会	第5回大会開催決定、第5回大会基本計画、H29 補正予算
平成30年2月20日	H29 第4回企画推進会議	第5回大会開催要項、予選審査・選考方法
(時期未定。年度内か?)	第5回大会の開催日決定	同日、第5回大会の日程及び開催要項公表
平成30年4月	H30 実行委員会(第1回書面会議)	H30 収支予算
平成30年4月	大会チラシ、ポスター等の送付	<ul style="list-style-type: none"> ・全国の高等学校、特別支援学校等 ・各都道府県、政令指定都市 (障がい福祉担当課、教育委員会) ・手話言語条例制定市町 ・各都道府県全国ろうあ連盟加盟団体 ・県内各市町村 ・県内公共施設 等
平成30年5月21日	参加申込み受付開始	
平成30年6月	H30 実行委員会(第2回書面会議)	H29 収支決算
平成30年6月	H30 企画推進会議(第1回)	第5回大会実施計画、参加申込み状況
平成30年7月6日	参加申込み期限	
平成30年7月19日	予選審査動画の提出期限	
平成30年8月2~3日	予選審査会	動画視聴による審査。3日に結果発表
平成30年8月	H30 企画推進会議(第2回)	第5回大会実施計画、予選審査結果
平成30年秋 (本大会の前日)	第5回全国高校生手話パフォーマンス甲子園リハーサル、交流会	リハ：米子コンベンションセンター 交流会：鳥取県西部地区
平成30年秋	第5回全国高校生手話パフォーマンス甲子園本大会	米子コンベンションセンター
平成30年11月	H30 企画推進会議(第3回)	第5回大会開催結果の報告、意見交換
平成31年2月	H30 実行委員会総会	第5回大会開催結果、次回大会の検討、H30 補正予算
平成31年2月	H30 企画推進会議(第4回)	次回大会の検討

[参考] 平成30年カレンダー



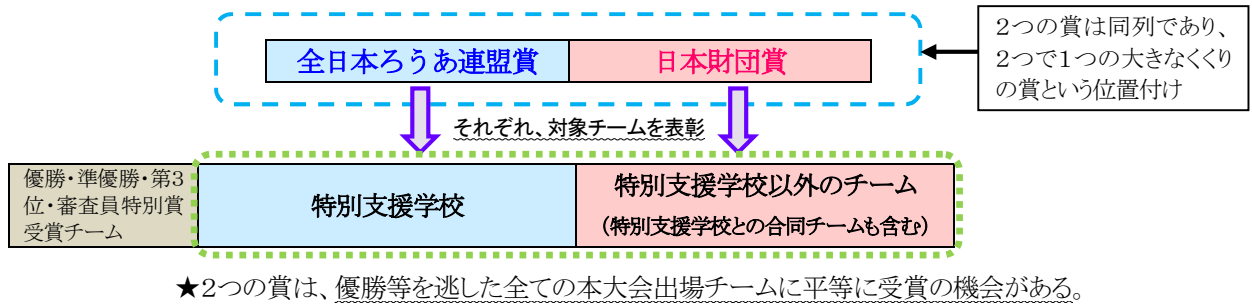
平成30年秋に第5回大会を開催する(開催期間:1日)
 ※ 本大会前日に交流会及びリハーサルを実施する。

全日本ろうあ連盟賞及び日本財団賞の取扱いについて

第3回大会以前は優勝チームに授与していた全日本ろうあ連盟賞及び日本財団賞について、前回（第4回）大会において、より幅広く受賞するという観点で、受賞対象となるチームを以下の参考のとおりの方で、両団体に提案した。

前回大会の結果を踏まえ、改めて両賞の取扱いについて検討する。

【前回大会における全日本ろうあ連盟賞・日本財団賞の取扱いのイメージ】



<考え方>

- 大会において、出場校の性質を大きく分けるとすると、「高等学校等」及び「特別支援学校」の2つに分類するのが最も適切といえる。
- 全日本ろうあ連盟賞及び日本財団賞それぞれの特徴を出すという観点から、その受賞対象チームの分類において、当該性質を活用したもの。
- また、「共生社会」という観点から、「高等学校等」及び「特別支援学校」をそれぞれ1チームずつ平等に表彰することは、「共生社会」に向け、有意義なことではないかと考えるもの。
- なお、受賞対象チームを検討する時間(ゲストパフォーマンス時)は非常に限られており、当日、一から議論・検討して受賞チームを決定するような時間を確保することは、現実的にできそうもないことから、事前に受賞対象チームを想定(かつ対象チームの範囲を狭く限定させる)する意図も含まれる。

【前回大会を踏まえた検証等】

- 大会当日に受賞の対象チームを検討する負担を考慮して、事前に受賞対象チームの考え方を整理し審査得点に基づいて機械的(客観的)に対象チームを決定できるように提案したが、実際に表彰を実施し、その状況を改めて検証したところ、受賞チームを決めるという観点で最初から観覧すれば、表彰チームを自由に選定することについて、特に負担にはならないということが分かった。
- 企画推進会議(今年度第2回)時に、共生社会を目的にした大会であることから、特別支援学校とそれ以外の学校で、賞の対象チームを分けるのはどうかというご意見をいただいた。

【第5回大会に向けた両賞の選定方針】

以上の点を踏まえ、第5回大会では両賞の対象チームの枠をなくし、自由に両団体に各賞の対象(受賞)チームを選んでいただくよう提案することとしたい。

ただ、幅広く出場チームを表彰するという考え方は維持したいことから、優勝・準優勝・第3位・審査員特別賞の受賞チーム以外のチームを対象に、かつ、両賞が重複しないよう受賞チームを選定していただくよう両団体をお願いすることとしたい。

平成 29 年度手話パフォーマンス甲子園実行委員会予算の執行状況について

2月7日に開催した平成29年度手話パフォーマンス甲子園実行委員会総会にて、以下のとおり補正予算が承認されました。

(1) 収入の部

(単位：円)

科目	予算額	補正額	補正後 累 計	主な補正理由
助成金	33,580,000	0	33,580,000	
負担金	13,824,000	△9,500,000	4,324,000	精算（実績）に伴う減 （お成りがなかったことによる）
協賛金	1,400,000	271,000	1,671,000	精算（実績）に伴う増 （25企業・団体、12名）
手数料	120,000	30,000	150,000	精算（実績）に伴う増 （応援自動販売機手数料）
雑入	180,000	△35,000	145,000	精算（実績）に伴う減 （寄付金・預金利息）
前年度繰越金	889,355	0	889,355	
計	49,993,355	△9,234,000	40,759,355	

(2) 支出の部

(単位：円)

科目	予算額	補正額	補正後 累 計	主な補正理由
実行委員会運営費	698,000	△198,000	500,000	精算（実績）に伴う減 （実行委員会開催経費等）
広報宣伝費	7,000,000	△1,220,000	5,780,000	精算（実績）に伴う減 （広告料、委託業務への振替等）
大会開催費	7,735,355	1,744,000	9,479,355	精算（実績）に伴う増 （会場使用料等）
大会運営委託費	34,560,000	△9,560,000	25,000,000	精算（実績）に伴う減 （お成り業務等）
計	49,993,355	△9,234,000	40,759,355	

手話パフォーマンス甲子園実行委員会企画推進会議 出席者名簿
(平成29年度第4回)

役 職	所属 ・ 役職名	氏名 (敬称略)	出 欠 (代理：敬称略)
委員長	鳥取県福祉保健部ささえあい福祉局長	宮本 則明	出
委 員	公益社団法人鳥取県聴覚障害者協会 事務局次長兼福祉・労働委員会委員長	戸羽 伸一	出
	鳥取県手話通訳士協会	森原 早百合	出
	全国手話通訳問題研究会鳥取支部	国広 生久代	出
	鳥取県手話サークル連絡協議会	田中 優子	出
	社会福祉法人鳥取県社会福祉協議会 常務理事	野間田 憲昭	出
	鳥取県教育委員会事務局 教育次長	寺谷 英則	出
	鳥取県高等学校長協会 会長	山根 孝正	出
	鳥取県私立中学高等学校長会 会長	佐伯 友茂	出
	鳥取県立鳥取聾学校 校長	三王寺 孝子	〔 教諭 霜村 新 〕
	一般財団法人全日本ろうあ連盟 青年部長	廣田 喜春	出
	国立大学法人筑波技術大学 教授	大杉 豊	出
事務局	障がい福祉課長	小澤 幸生	\
	障がい福祉課社会参加推進室 室長	明場 達朗	
	障がい福祉課社会参加推進室 課長補佐	竹ノ内 司修	
	障がい福祉課社会参加推進室 係長	安永 孝文	